

R-18

雷の女戦士 凶鑑3

寝所で睦がれる美女たちの自慰・シズ行為

若い兵士達を呼寄せ歓喜の乱交騒ぎ!

月神凶鑑



ジユのエツタ王女さまが異国の
「ばじゃまばーてい」という
風習をやってみたいというので、

カ○ラとイ○タは寝間着を持参して
カ○ラの部屋に泊まりにきました……



三人は浴場で互いに体を洗いたい
おしやべりに花が咲きました

そして体軀を綺麗にしてから
火照った体をさましてから寝間着に着替えました



夜が更けても三人はファツシヨンの事、お菓子の事、吟遊詩人の流行歌、旅芸人の話題の芝居の事など……



おしゃべりの種は尽きずガールズトークに熱中して、いつしか夜もふけて疲れて眠ってしまいました……

カオラはイオタ、
ジュリエッタと、
楽しい時間を終え
お喋りを終えに
何時に眠りに
ついでいた……

なんだから
興奮しないでか
眠れない……

ムニユ♡

ドキ……

ドキ……
セッ……

ドキ……

以前、三人で
雷撃隊の士たちとの
火遊びの事を思い返し
あの時の興奮が返し
フイの時の興奮が
肉体が昂揚してクされ
眠れなかつた……
強烈な自慰の誘惑に
抗えなくなる……

皆もう寝てるよね……

カオラは二人の
寝息を確認し
火照った秘所に
指をあてがう……

あぁん……
駄目え……
くふう……

二人を
起こさないよう
喘ぎ声を抑えるが
つい漏れてしまうが……

もみゅ

もみゅ……

イッポ……

くちゅ……♡

あぁん♡

ひゅ……

力○うは右手で
発育のいい胸を
こねくるとよい揉み
左手で寝巻きをはだけ
股間のピンクを
指で弄くり始めた……

こんな……
事しな……
はダメ……
あはな……
あのに……



ハア...
ハア...
ハア...

「カ
ーはう
オナニ
気持ち
良かつ
たのあ
んっ
おんっ
...」

「自慰の
余韻に
カ
ーの耳
元で、
...」

「イ
ーう
カ
艶っ
カ
ワ
...」

「能
熱っ
イ
囁
か
れ
た
の
声
が
...」

「カ
ー
イ
起
き
て
い
た
の
？
...」

ひちよ〜〜〜

「カ○ラ
もろうく……イ○タつたら
人の自慰を覗くなんて
いけない仔猫ちゃんねえ……」

「ん……♡」

「……♡」

♡=♡

♡=♡

「イ○タ
「ああん……
だっで、寝てたら
なんだか色っぽいら
聞こえたんだもの……
不可抗力よ……」

「カ○ラ
「罰として
イ○タのオナニー姿を
見せてよ……」

「イ○タ
「えええ……♡
そんなあ……」

「……♡」

「カオラ
「うわあ……
「イ○タのぶつくり
「お○んこ柔らかからいい！」

ん？

「イ○タ
「ちよつと
「あ、はやあんと
「そこは敏感な
「箇所なの……」

「カオラ
「オナニー見せて
「くれないなら
「このまま指を
「入れちゃうよ……」

んちゅちゅ……

ムニャムニャ……

ブルブル……

んちゅちゅ……

アガア……
んん……



「イ○タ
「きやあ……ひやうあん
ゆ、指が……カ○ラあん
入いっちやってるよう……」

ソラソラ……

「カ○ラ
「可愛くたかイ○タが
「なっちや……た……めたく
「うりうちり……た……」

「イ○タ
「しよんなあ

ぬちゅっ!

ぬちゅっ!

ぬちゅっ!

ピクッ!

ヒ
ア
ア
……

「ダマエ……





「イ○タ
ーやあ
あ……」

「イク……イクう……
イツちやうよう……」

アハッ♡

「カ○ラ
ーあはあ
♡……
潮○あはあ
♡……
な○んていはい
♡……
可愛いの♡
……」

♡=♡

♡=♡

ヒクッ!
ヒクッ!

ヒクッ!
ヒクッ!

少女の股間から
大量の蜜しびきが
溢○れ虹が浮かぶかと
思○われれた……

アハッ……

カオラ「こころなつたら王女さまも
仲間に入れちゃおう！」

イオタ「わ〜〜い！王女さまのおっぱいー！」

ジュ○エツタ

「あらあら、二人ともおっぱいに
吸い付いちやっで
赤ちやんみたいね……」

ちゅぱっ♡

んっ♡
んっ♡

あぁ…ん♡



イータ「王女様のおっぱいは大きくてふわふわの
肉感だ〜さすががナイスボディですね〜」
ジュリエッタ「あん……二人とも……
上手なのね……うふん……
感じちゃうわあ……」

ちゅ〜♡

んっ♡

もオ…♡

ドキ
ドキ

ドキ

カオリ「ペロペロ……もっとう気持ちよくなって
差し上げますようか?」



カオラ「王女さまのアソコ……うふっ
もうこんなになにグチユグチユですよ……」

ジユのエツタ「きやう……そこは……
やああん……でも……
気持ち……いいかも？」

イ○タ「ちゅ……ちゅ……」

んん…… あん♡

チュッ

チュッ

ッ
グッ

ク
チュッ♡

んん……





ジユ○エツタ

「ひゃああああああああん！」

イ○タ「ぷはあ……母乳も

大噴射だよおろろ」

プシュッ!

プシュッ!

プシュッ……

ドクッ
ドクッ
ドクッ

カ○ラ「遠慮なく達して
くださいませ……」

力のうたたちは物足りなくなり、
深夜にも関らず雷撃隊の隊士たちを召集した。
もちろん、乱交のため相手要員のためだ……

ドキ

ドキ

ドキ

むちゅん♡

くぱぁ……

新兵A「こんな夜中に何かと思えば

こんな楽しい集いを
開かれておられるとは……」

カーラ「うふっ……

火照ったこの穴を
お前達で肉棒で
愉しませてくれよ……」

カーラ「おおお……」

中々猛々しいモノを
持っているじゃないか……」

オオオッ

ゴウ

新兵A「そりゃあ、憧れのカーラ隊長のおんこを
拝ませたので勃起しないほうが
おかしい……」

オオオッ



新兵A「うおおお……隊長の膣肉……」

「なんとも言えぬ柔らかさと温もり……
ぐちゅぐちゅのぬちゅぬちゅ……
思わず果ててしまいたいような心地よさです……」

アツアツ

ぷるん!

ぷるん♡

ヌチュッ!

ヌチュッ!

ぎゃん♡

カトラ「あひゃ……ん……ひゃうん……」

「やっぱ指でのオナニーよりも
男の陰茎の方がしっくりくるなあ……」

カ○ラ「ひああああ……

いいぞ、もうとまこと
子宮にノックする
勢いで突いてくれ……」

あん♡

ああぁ

んんん

ゆさ

ゆさ

ハッ

ハッ

ハッ

ハッ

ハッ

ハッ

ハッ

ハッ

ハッ

新兵A「はい……突いて突いて突きます

おおお……もう達しそうだ……
カ○ラさんの柔肌に思い切りぶちまけたい……」

新兵A「はあ…はあ…

今夜もたっぷり堪能させて
いただきました…」

ハア…

ハア…

ハア…

カオラ「ふい〜〜〜

中々の腰使いだっただぞA…」

新兵A「本当ですか？」

ありがとうございます！

ガッ

ガッ…



カ○ラ「お○んちんブルンブルンさせて
美味しそう……」

ドキ
ドキ
ドキ
ドキ
ドキ

新兵D「隊長が上になつてくれるなんて……
この角度から見る裸のカ○ラさんも
美しい……そして、エロい……」

せ○ちゅん♡

プルン



カ〇ラ「あふあん……んん……いいぞお……

硬くてゴリゴリしたペニス……くふあ……
あたしの腔内にスプスプと侵入してくる……」

ア
ア
ん♡

コ
クン!

ムニ♡
ムニ♡

アプアプ……ッ

新兵D「おおお……カ〇ラさんのお〇ン」は

腔肉の襞々が……亀頭に絡みついて……
堪らない……たまらないぞお……」

カオラ「よおし……動くふあ……」

少しずつ動かしていくわよ……
それ……ぬいぬい……

くはア……

ムニョ♡

んん♡

ズチュツ……

ヌチュ……

ズググツ……

新兵D「うおおお……隊長が自ら腰を動かしてくれとは……」

思わず果ててしまいいそうなきや……
まだ我慢だ……我慢しな……」



新兵G「Dばかりズルイぞお……順番が待てない……」

カ〇ラさんの素肌になぶっかけてもいいですかあ？」

新兵E「あああ……自分もシッコシッコしたいです……」

新兵C「俺も俺も……」

あふぁ……♡

ヌッ！

ヌッ！

ヌポッ

ヌホッ

ヌチュッ

ズチュッ

カ〇ラ「堪え性の無い奴だなあ……」

しよがなない奴等だ……ホラ……いいよ……
あたしのハメてる姿見てシッコしないよ……」



カオラ「あはあ……んん……しゅごおいのお……
ザーメンぬるぬる……精液の沼に全身浸っている
みたいなのお……あはあ♥」

新兵FED「カオラさんのSEX気持ち良かった……」
新兵FED「俺も思いのたけをぶちまけたあ……」
新兵FED「カオラさんがスペルマまみれでまた興奮してきた……」



新兵B

「ごくっ……イオタさんの桃のようなお尻
その中心にはぷっくりおのんココが涎を垂らしている……
本当にいいんですか？コココに挿入しても？」

ドキ……

アチュ……

ドキ……

ドキ……

ハァ……

ハァ……

イオタ「うん……いいのよ……」

「こんな夜遅くに来てくれたんだもの……
気持ちいい目にあわせてアゲル……」

イ○タ

「はやく……早くあたしのお○ンコに
あなたの膨張したお○ンポを突っ込んでえ……
もう……切なくて堪らないのお……」

ビクン…

ビクン…

ドキ…

ドキ…

ドキ…

新兵B

「イ○タさんのピンクに色づくお○ンコに
自分の○ンポを突っ込ませて頂きます！」

ズルプルプル...

イ○タ「ひゃううん……くあっ……
いやっぱり……本物は気持ち
いいの……」

ズチュチュ...

トクッ!

新兵B「イ○タさんの膣中……にゆるゆる
ぐちゅぐちゅで陰部に絡んでく……」



新兵B

「うはあ……おのこの快感に加えて
尻肉に当たって柔らかさを堪能できます……」

パニッ
パニッ
パニッ

パニッ
パニッ
パニッ

パニッ
パニッ
パニッ

「あたしすっごい興奮しちゃうの……」

イ○タ「ホントお？イ○タのお尻肉にパンパン

アッ……♡

アッ……♡



イ○タ「あああん……ザーメン出ているう
たっぷりスperlマでイ○タのお尻を
汚しまくってえ……」

ビクッ！

ビクッ

ビクッ

ポォ

新兵B「はいいい……イ○タさんの丸くて白いお尻に

自分の白濁スperlマぶっかけまくりますう……」



イ○タさん……
両手で脚を抱えて
M字に開脚して
ください……

ドキ……

よいしよ……
い感じか……
だんな……
やだ……
赤ちや……
恥ずか……

パイ○タさん
の○んこ
お○の
あ○の
だ○の
え○の
見○の
丸○の
もう○の
う○の
堪○の
ら○の
な○の
い○の

ドキ……

ドキ……

むちん♡



ゴクツ……
そんなん目で見て……
なんだか怖いよう……

あんな…♡

……えっ？
そっか？
スミマセン、
欲望が先走った
おみたくで……
お互いい気持ちよく
SEXをしましよ……

くちゅ…♡

ギン!

あひゃあああ...
あん...ひゃうん

ああんっ

キュン...♡

ずぬ
プウ...

大丈夫です
イのタさん...
もつと、力を抜いて...



まきやぶう……あんたの
おいのちん……
おつともつと
突いてえ……

うん……
ひゃ

くはあ……
イ○タさんの膣内
ぐちゅぐちゅの
ぬるぬるで……
射精してしまいそうだあ……

がぽっ

がぽっ

がぽっ

がぽっ



はあはあ……
も、もう……
駄目なの……

ブルン!



自分も限界です……
白い液体、いっぱい……
射精しちゃいます……

びゅん!

びゅん!

びゅん!



ふにゃあ〜ん
いっばあ〜ん
射しちやっ
な精だか
ポカンポカ
するよ

はあ…はあ…
自分も…
イ○タさんの
心がポカポカ
します…

ハア…

ハア…

ハア…

ハア…

ふふふ…



新兵C「王女様のおっぱいはいでパイズリ……」

なんて高貴で柔らかいんだ……
凄く興奮いたします……」

モオ……♡

ジユのエツタ
まあ……うい
殿方は本当におい
好きなんです……
ね……

ムニムニ

ムニムニ…♡



「あぁあぁ……凄いいわぁ……
私の乳房でおっぱいチンが
ビクビク脈打っているの……」

「ひゃん…♡」

「新兵衛……王女さまっ
興奮しちゃって
今にもおちんポが
暴発しそう……
美味しい……
味わいた……」

又チン♡

又チン♡

又チン♡

新兵C

「嗚呼……もう我慢の限界です……
王女様の乳房の中で思い切り
スペルマを射精したいです……」

くっ……ん♡

ニムポ♡

ニムポ♡

ニムポ♡

ニムポ♡

ニムポ♡

「……
吐き出し
思いの
貴方の
ーい
ジユ
のい
ん
で
す
よ
……
メ
ン
に
ま
せ
……」



新兵の「くはあ……限界突破です……」

「それでは失礼致します……」

ピクッ!

ピクッ!

グッ!

グッ!

びゅん!

びゅん!

凄じ
いあ
っは
いで
すい
わ……
く……
く……
く……
く……

若殿
の精
液が
散っ
て……

ジュ
アの
エツ
タ
ん
う……

「ジュウのエツタ
ーいんふうくく
妻の量の精汁でん
それい量に凄いの匂いすね……」

新兵C
「ああ……自分は守るべき
王女様になんて……
不遜な事を……
でも、自分の精液でまごころむ
王女様の姿はなんて
刺激的で官能的なんだ……」





新兵C「今度は自分が王女様を気持ちよくさせて

いたただきます……ああ……くおおお……
王女様の太腿に挟まれたただけで
いきそうだ……」

クイッ!

モミ♡

ヌヌ…!

モミ♡

あん♡♡

ジュ○エツタ「まあ……うふふ……

期待してますよ……
あああん……」

新兵C
「うほおおおおお……
これは凄……王女様の膣肉の中は……
ぬるぬるの又カルミのよう……
この世にこんな……
世界があつたとは……」

ウホッ!

くあア……!

ムニユ

グニッ
グニッ
グニッ……

ジューエツタ

「きやふう……ん……
私の膣内に太くて硬いものが……
侵入してきますわあ……」

新兵の「うっうっ……王女様の……お○シ○……
気持ち良すぎて……精液が……っばい
噴出されます……くふおお……」

アアア…♡

「アアア…♡」
「私も感じちやっつて……んー！」

ビュッ!

ビュッ!

ビュッ

ビュッ



「カ〇ラ
おほおほ〜
久しぶりの男の陰茎は
目に沁みるなあ〜」

ドキ

ドキ

ドキ

ドキ

「ジユのエツタ
一本ですわ
男のフェロモンが
最も顕著に醸し出されて
ますわ……
素敵……ペロペロっ」

でドロ……

心ドロ♡

「新兵C
お二人で同時に
舐められる
とは……!」



「カ○ラ
お○お
肉竿が
ビクン
脈打っ
ているん
...」

あんっ♡

ヤんっ♡

ぴちゅっ

ぴちゅっ

んっ...

「ジュの
エツタ
私達の
ペロペ
ロが
嬉し
いよ
いで
すわ
...」

「新兵
Cの
嬉し
い方
では
ない
です
こち
ちら
の方
は
可
愛
が
つ
か
な
い
頂
い
て
あ
ら
ま
す
ご
ざ
い
が
ま
す
...」

「カピロラ
ちやびちや
やびちや
……
もう限界じゃ
ないのか？」

あはん♡

やああん♡

ぴちぎ

ぺちぎ!

んんんん

んんんん

「ジュエッタ
好きな時に
射きなすよ
……」

「新兵の
おふう……
しかし此處
射精しでは
うあく……
ああ……
もう駄目だ
……」

「ジュウのエツタ
ーうふふふふ
本当は凄いな
ですわ……」

「カ○ラ
ーふふふ
凄いな……
だ……
禁……
し……
て……
た……
の……
か……
?」

「ア……」

「ア……」

「ア……」

「ア……」

「新兵C
新……
そ……
れ……
は……
お……
二……
人……
に
舐……
め……
舐……
め……
は……
か……
め……
し……
て……
す……
よ
一……
貫……
つ……
め……
た……
か……
び……
じ……
ら……
や……
で……
す……
よ
こ……
こ……
ま……
ま……
で……
せ……
ん……
射……
精……
ま……
せ……
ん……
」

「ぐろろ……」



あっぱっ♡

カ○ラ「ふふ……イ○タのおっぱい
やわらかい♪」

むち

ん♡

うっ♡

新兵「新
兵カ○G
イ○タさ
んのお
尻が……」

「イ○も
もっカ
ーのら
うっ♡」

カオラ「ほら、あたしとイOTAのおんこどっちから食べる？」

ウフッ♡

イOTA「もちろん、あたしからね？」

アハ♡

新兵G「ごくん……両方のヴァギナを味わいたい……」

トロ♡

ヌッ!

あんっ♡

「カアッ……ひゃうー！
くはああ……あ……」
「イタ……んん
「感じちゃうよ……」

くふっ♡

んっ♡

ヌチュッ♡

ヌチュッ

ヌチュッ

新兵G「おほおおお……」

「これは病みつきになりそうなの……」
「ダブルおんこブアックプレイです……」

びくっ

カ○ラ
き○や
し○ご
ゆ○お
い○お
ー○す
ー○い
ぶ○え
っ○い
た○精
か○液
け○
ば○
て○
い○
え○
…
」

びくっ!

びくっ
びくっ
びくっ

びくっ
びくっ
びくっ

新兵G「もう…限界です…
精液いっぱい射精するっ…」



カオラ「最後に三人一緒に性交しましょうか……」

ドキ……

ドキ……

ドキ……

イオタ「ふわっ……いいわねソレ」

ドキ……

ドキ……

ジュリエッタ

ドキ……

「うっ……隊士の皆さん好きなお尻にハメてくださいね……」

むちゅん♡



カ○ラ「にやうん……やっぱり

本物のお○んちんは効くわあ〜〜〜!

新兵A
「カ○ラさんのお○んこ
吸い付いてきます……」

んん…

イ○タ
「あたしも
あたしも〜」

きゃう!

アん♡

ジュ○エツタ
「お○んちん挿入したり
抜いたりしてくださいね〜」

ヌグッ…

ズグッ…

ズグッ



新兵E
「順番を待てないも
素肌にぶっかけても
いいですか？」

アアアアア

カオラ
「はい、マ
スピールマ
ぶっかけてえ」

ヒアハハハ

イオタ
「あんな
ペニスがい
はう...」

くっ♡

ジュエッタ
「ザーメン
かけて下さ
いね...」

ヌッ

ヌッ

ヌチュッ

ヌチュッ

ズチュッ

ズチュッ

ジュプッ

ジュプッ

新兵G「勿論で
ありませぬ」

新兵A「いや〜〜

興奮しました……

気持ち良かったです……」

カオラ「そうか……

しかし……凄い量だな」

「ハア……

「ハア……ハア……

イのタ

「ベトベトお〜

でも癖になりそう……」

「ハア……

「ん〜

「るお……

「ホタ……

「ん〜

「ホタ……

「ジュウエツタ

「精汁の匂いに酔ってしまいましたわあ〜」